

11 古典の基礎①

■ 定着問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

横川^{注1}の恵心僧都^{注2}の妹安養^{注3}の尼上^{注4}のもとに、強盗入りて、あるほどの物の具、みな取り出でければ、尼上は紙衾^{注5}といふものを引き着て居^{注6}られたりけるに、姉なる尼のもとに、小尼上とてありけるが、走り参りて見れば、小袖^{注7}を一つ落^{注8}したりけるを、取りて、「これおとして侍^{注9}るなり。奉^{注10}れ。」とて持^{注11}て来たりければ、尼上「それを取りて後はわが物とこそ思ひつらめ。主の心ゆかぬ物をばいかが着るべき。いまだ遠くはよも行かじ。とくとく持ておはして、とらせ給へ。」とありければ、門戸^{注12}の方へ走り出^{注13}でて、「やや。」と呼び返して、「これを落とされにけり。たしかに奉らむ。」といひければ、盗人ども立ちとどまりて、しばし案^{注14}じたるけしきにて、「あしく参りにけり。」とて、取りたるものども、さながら返しおきて、帰りにけり。

注1横川^{ひえいざん} 注2恵心僧都 注3天台宗の高僧。

注4小袖 注5紙の寝具。 注6袖口を小さく仕立てた和服。

(現代語訳)

横川の恵心僧都の妹である、安養の尼上^{注4}のところに、強盗がはいって、ありったけの道具類を全部奪って出て行ったので、尼上は、紙衾^{注5}というものだけを身につけて座っていらつしやったが、姉である尼上^{注4}のところに、小尼上^{注7}というのがいたが、その人が、かけつけて参って見ると、小袖を一つ落としてあったのを、拾って「これを落としてありました。お召しなさい。」といって持^{注11}て来たので、尼上は「それを取り取った後は、自分のものと思^{注13}っているだろう。持ち主が承知しないものを、どうして着ることができようか、できません。まだ遠くまでは、まさか行かないだろう。急いで持^{注13}っていらつしやって、渡してください。」とおつしやったので、門の方へ走り出して行^{注13}って「もしもし。」

知識の整理

●歴史的かなづかい

- ① 語の初め以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は「わ・い・う・え・お」と読むことが多い。
- ② 「ぢ・づ」は「じ・ず」(例外も多い)、「ゐ・ゑ」は「い・え」・助詞以外の「を」は「お」と現代かなづかいでは表記する。
- ③ 「かう・さふ・らふ・たふ」は「こう・そう・ろう・とう」と読む。同様の例は多い。

●省略

- ① 主語・連用修飾語を作る助詞(が・を)などが省略されることもある。
 - ② 主語が省略される場合がある。
- ・ 下男目を覚まし ↓ 下男が目を覚まし
・ かの男呼びつけて ↓ かの男を呼びつけて
・ 空寝入りして、返事もせねば、是非なく帰りぬ。
↓ 三つの動作があるが、それがだれの動作であるのかはまったく示されない。
- これ以外にも、さまざまな語が省略される場合がある。文章全体の流れを正確にたどって、どのような言

と呼びもどして、「これを落としました。たしかに差しあげましょう。」と言ったので、強盗たちは立ちどまって、しばらく考えている様子で「こんなところへ参上してしまったのはまずかったなあ。」と言って、奪った品物をそっくり返して置いて帰ってしまった。
(『十訓抄』)

(1) 〰線①～④の動作はだれがしたものか。それぞれ次から選び、記号で答えなさい。

ア 恵心僧都 イ 安養の尼上 ウ 強盗 エ 小尼上

(a) _____
(b) _____
(c) _____
(d) _____

(2) 〰線①「それ」とは何を指し示しているか。古文中の語句で答えなさい。

(3) 〰線②「主」とはだれか。古文中の語句で答えなさい。

(4) 〰線③「いかが着るべき」の意味にあたる部分を現代語訳中から書き抜きなさい。

(5) 〰線④「取りたるものども…：帰りにけり」となったのはなぜか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 尼上のあまりの弱気に対して、良心の呵責を感じたから。

イ 我欲のない尼上の行為に、自分たちの欲のあさましさを感じたから。

ウ 盗人でありながら情けをかけられて恥ずかしく思ったから。

エ 一つでも盗み残しがあったことは、盗人のプライドが許さなかったから。

オ 身分の高い尼上の物を盗んだ罪の大きさにおびえたから。

(6) 〰線部「いひければ」は、ア仮定条件、イ確定条件のどちらを表しているか。記号で答えなさい。

葉が省略されているかを判断する。

●仮定と確定

①「未然形」＋「ば」〰仮定条件

もしも〰なら、の意味。

・雪降らば〰もしも雪が降るなら

②「已然形」＋「ば」〰確定条件

〰ので、〰すると、の意味。

・一声ものしたれば〰一声鳴いたので

●係り結び

強調・疑問・反語などの意味をつけ加えるために、

「ぞ・なむ・や・か」の語が文中に使われた場合、文末の語は終止形でなく、連体形になる。また、「こそ」

が使われた場合、文末の語は已然形で結ぶ。このきまりを「係り結び」といい、古文にはよく出てくるので

注意。

・雪ぞ降りける。

・貴くこそおはしけれ。

・意味の違い

「うつくし〰↓かわいらしい」「ありがたし〰↓めつ

たにない」「をかし〰↓風流だ・心ひかれる」のように、

現代語と形は同じでも意味の異なる語もある。

●現代文と違いのある古典の文法・語句の基本をマスター

することは、中学生にとってたいへんな作業である。

さしあたり、できるだけ多くの古典に触れることによ

って、古典の雰囲気をつかみたい。

●●●強化問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

木に烏、いかに新しき肉をくはへむたる折ふし、その下に狐居合はせて、「さても少々相伴申したきことかな。」と思ひしかども、境界はるかに違ふたることなれば、了見の及ぶべきなしとてゐたり。ややありて工夫をめぐらし、いふやうは、「さても美しき色かな。あのやうに思ひきつて黒き色は漆もものかはぢや。鳴きたまふ声もならぶものなし。鳴きて聞かせられ候へかし。」といふ。烏聞きて、「狐のいふところ、まぎれもなきことなり。さらば聞かせん。」とて、一声ものしたれば、肉は地へ落ちたりしを、狐ひきくはへて、往にたる。

（『戲言養気集』）

注1 相伴申したきことかな＝分けまえにあずかりたいものだよ。

注2 境界はるかに違ふたること＝互いにいる場所が木の上と下とではるかに離れていること。

注3 漆もものかはぢや＝漆の黒さも及ぼうか、及びはしないよ。

(1) — 線①「くはへむたる折ふし」の読み方を現代かなづかいのひらがなで書きなさい。

(2) — 線②「思ひしかども」の意味として最も適切な

ものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 思ったけれども イ 思ったとしても
ウ 思わなかったが エ 思ったので

(3) — 線③「了見の及ぶべきなし」の現代語訳として

最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。
ア 木に登っていけそうにない。
イ よい考えが浮かびそうにない。
ウ 肉を分けてやれそうにない。
エ 相談ができそうにない。

(4) — 線④「工夫をめぐらし」とあるが、何のための

「工夫」か。簡潔に説明しなさい。

(5) — 線⑤「さらば聞かせん」を現代語訳し、この言

葉に表れている烏の気持ちとして最も適切なものをあとのア～オから選び、記号で答えなさい。

〈現代語訳〉

ア 感激 イ 不安 ウ 反発
エ 得意 オ 満足

〈気持ち〉

(6) — 線⑥「ものし」に置き換えられる言葉を古文中

◆考えかた

解きかた

1 細かいところにこだわ

らず、文章全体の筋をま
ず大きくとらえることが
大切である。烏と狐は、
それぞれどんな気持ちな
のか、考えてみよう。

(1) ハ行の音と「ぬ」と「を」

に注意する。

(2) 「ども」は逆接の助詞
である。

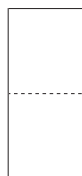
(3) 「了見」とはどんな意
味の語か。

(4) 狐は「少々相伴申した
きことかな」と考えてい

る。このとき「工夫」と
いえば、何のためのもの
か。

(5) 烏は「狐のいふところ、
まぎれもなきことなり」
と言っている。「さらば」
は「さ（そのように）あ
らば」がまった語。

から二字で書き抜きなさい。



(7) この文章に含まれている教訓として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 人の忠告には素直に耳を貸すようにしないとあとで痛い思いをするということ。

イ 人の甘い言葉にのってつまらぬ自慢をしていると思わぬ損をするということ。

ウ 人の持っているものを無理に手に入れようとするとはひどい目にあうということ。

エ 人のうわさは根拠があいまいだからあまり信じないほうが賢明であるということ。

オ 人の弱みにつけこんで自分勝手なことばかりしていると必ず失敗するということ。



2

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

前の大和の守時賢が墓所は、長谷といふ所にあり。その留守する男、くくりをかけて鹿を取りけるほどに、

或る日、大鹿かかりたりける。この男が思ふやう、「く

くりにかけてとりたらん、念なし。射殺したりといひて、

弓の上手のよし人に聞かせん」と思ひて、くくりにか

たる鹿に向ひて大雁股をはげて射たりけるほどに、その

矢、鹿にはあたらずして、くくりにかけたりけるかづら

にあたりたりければ、かづら射切られて、鹿はことゆゑ

なく走りにげてゆきにけり。この男、かしらがきをすれ

ども、さらにえきなし。

(『古今著聞集』)

10

注1 時賢 源時賢。

注2 留守する 墓守をする。

注3 くくり 〓 わな。

注4 念なし 簡単だ。

注5 大雁股 矢の一種。

注6 はげて 〓 つがえて。

注7 かづら 〓 つる草。

注8 ことゆゑなく 〓 なんなく。

注9 かしらがきをすれども、さらにえきなし 〓 頭をかいて悔しがったが、どうにもならなかった。

(1) 線①「思ふやう」の読み方を現代かなづかいのひらがなで書きなさい。



(2) 線②「鹿に向ひて……射たりける」とあるが、男が鹿に向かって矢を射たのはなぜか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 生きた鹿を矢で射る経験を積みかかったから。

イ 鹿を矢で射たと人に言いふらそうと思ったから。

ウ 鹿が逃げないよう、念を入れようと思ったから。

エ 矢で射れば、わなにかかった鹿を外しやす

いから。

(3) 線③「鹿はことゆゑなく走りにげてゆきにけり」とあるが、なぜ鹿は逃げることでできたのか。簡潔に説明しなさい。

とあるが、なぜ鹿は逃げることでできたのか。簡潔に説明しなさい。



(6) 鳥は「さらば聞かせん」と言ったあと、どうしたのかを考える。

(7) 文章の最後の「肉は地へ落ちたりしを、狐ひきくはへて、往にたる」に着目して、最後はどうなったのかをおさえる。

(8) 場面状況と、男の気持ち・行動をとらえよう。

(9) 語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」と、「au」と母音が二つ続く部分に注意する。

(10) 前の行に「射殺したりといひて、弓の上手のよし人に聞かせん」と、男の気持ちを書かれている。この部分から、男がしたかったことをとらえる。

(11) 直前の「その矢、鹿にはあたらずして……かづら射切られて」の部分に、鹿が走って逃げていった理由が書かれている。

(12) 直前の「その矢、鹿にはあたらずして……かづら射切られて」の部分に、鹿が走って逃げていった理由が書かれている。

(13) 直前の「その矢、鹿にはあたらずして……かづら射切られて」の部分に、鹿が走って逃げていった理由が書かれている。

(14) 直前の「その矢、鹿にはあたらずして……かづら射切られて」の部分に、鹿が走って逃げていった理由が書かれている。

(15) 直前の「その矢、鹿にはあたらずして……かづら射切られて」の部分に、鹿が走って逃げていった理由が書かれている。

(16) 直前の「その矢、鹿にはあたらずして……かづら射切られて」の部分に、鹿が走って逃げていった理由が書かれている。

(17) 直前の「その矢、鹿にはあたらずして……かづら射切られて」の部分に、鹿が走って逃げていった理由が書かれている。

(18) 直前の「その矢、鹿にはあたらずして……かづら射切られて」の部分に、鹿が走って逃げていった理由が書かれている。

(19) 直前の「その矢、鹿にはあたらずして……かづら射切られて」の部分に、鹿が走って逃げていった理由が書かれている。

(20) 直前の「その矢、鹿にはあたらずして……かづら射切られて」の部分に、鹿が走って逃げていった理由が書かれている。

(21) 直前の「その矢、鹿にはあたらずして……かづら射切られて」の部分に、鹿が走って逃げていった理由が書かれている。